

二〇二六年度(令和八年度) 一般選抜型選抜 前期 国語 問題用紙

※ 解答はすべて解答用紙に記入すること。

- 一 次の①～④の傍線部分の読み方を書きなさい。また、⑤～⑧の傍線部分を漢字に直しなさい。その際、必要なら送り仮名も書くこと。

- ① 自然の力を侮つてはいけない。
- ② 野球選手の年棒に驚いた。
- ③ 移行措置の期間を設ける。
- ④ 歴史研究で、市の変遷をまとめる。
- ⑤ 景気上昇のきざしが見えない。
- ⑥ 万博では、ちようだの列ができた。
- ⑦ はんようせいを重視した製品を作る。
- ⑧ 小児科びようとうに入院する。

- 二 次の文章を読み、問一から問六に答えなさい。

貧困な層の定義として世界銀行等でふつうに使われるのは、一日あたりの生活費が「一ドル」という水準である。一九九〇年には、この貧困ライン以下に一二億人が存在していたという。世界銀行はこのほかに、極貧層として、年間所得二七五ドル（一日あたり七五セント）以下というa カテゴリをつくった。このカテゴリにふくまれる人びとは、一九九〇年で六億三〇〇〇万人であり、発展途上国の人口の一八％にのぼるとされる。

貧困のこのようなb コンセプトは正しいだろうか？ 正確に言えば、現実の構造を的確に認識する用具として、適切な定義の仕方といえるだろうか？

同じような資料は多いので、たまたま最近目にふれたありふれた事例の一つをとりあげてみよう。中国南部の少数民族ヤオ（瑶）族の族支、巴馬瑶族の人たちの暮らす村々は、百歳をこえて元気な人たちの多い地域として知られるが、調査の対象となった百五歳の男性は、長生きの原因は「悩みがないこと」だろうと言っている。県の「高齢委員会」は長寿の原因を、「①温暖な気候と汚染のない空気、②食物が自然のもので、低脂肪、高栄養価であること、③長年の畑仕事で体がきたえられ、飲酒、喫煙率が少ない」ことを挙げている（朝日新聞一九九五年九月四日記事）。「高栄養価」という食物は、「トウモロコシの粉と米のおかゆ、野草やサツマイモ、カボチャの茎、大豆などのスープやいためもの。肉は三日に一回の割合」というものである。c 長寿が幸福とは限らないが、九十歳代くらいまでは元気で「A」ということは、よい人生だろうと想像する方が素直だろう。この巴馬瑶族の地域の一人あたり平均年収は四八〇〇円（一九九五年）で、一日あたり〇・一三ドル

くらいである。

アメリカの原住民のいくつかの社会の中にも、それぞれにちがったかたちの、静かで美しく、豊かな日々があった。彼らが住み、あるいは自由に移動していた自然の空間から切り離され、共同体を解体された時に、彼らは新しく不幸となり、貧困になった。経済学の測定する「所得」の量は、このとき以前よりは多くなっていたはずである。貧困は、金銭をもたないことにあるのではない。金銭を必要とする生活の形式の中で、金銭をもたないことにある。^d貨幣からの疎外の以前に、^e貨幣への疎外がある。この二重の疎外が、貧困の概念である。

貨幣を媒介としてしか豊かさを手に入れることのできない生活の形式の中に人びとが投げ込まれる時、つまり人びとの生がその中に根を下ろしてきた自然を解体し、共同体を解体し、あるいは自然から引き離され、共同体から引き離される時、貨幣が人びとと自然の果実や他者の仕事の成果とを媒介する唯一の方法となり、「所得」が人びとの豊かさと貧困、幸福と不幸の尺度として立ち現れる。(豊かさと貧困の近似的な尺度として存立し、幸福と不幸の一つの基礎的な次元として成立する、というべきだろう。)

人はこのことを一般論としてはただちに認めるだけでなく、「あたりまえ」のことだとさえいうかもしれない。けれども「南の貧困」や南の「開発」を語る多くの言説は、實際上、この「あたりまえのこと」を理論の基礎として立脚していないので、認識としての失するだけでなく、政策としても方向を過つものとなる。

一日に一ドル以下しか所得のない人が世界中に一二億人もいて、七五セント以下の「極貧層」さえ六億三〇〇万人もいるというような言説は、善意意図からされることが多いし、当面はよりよい政策の方に力を与えることもできるが、原理的には誤っているし、長期的には不幸を増大するような、開発主義的な政策を基礎づけてしまうことになるだろう。巴馬瑶族の人たちもアマゾン多くの原住民も、今日の「一日一ドル以下」の所得しかない一二億人に入っているが、彼らの「所得」を「一ドル以上」とするにちがいない政策によって、幸福のいくつもの次元を失い、不幸を増大する可能性の方が、現実にははるかに大きい。(視える幸福とひきかえに視えない幸福の次元を失い、測定のできる幸福とひきかえに測定のできない幸福の諸次元を失う可能性の方が大きい。)

「自分たちの食べるもの」を作することを禁止されたあのドミニカの農民たちは、食べるものを市場で買うほかに生きられないから、どこかの大量消費市場のための商品作物を作って金銭を得るほかはなく、「所得」は増大せざるをえない。この市場から、以前よりも貧しい食物しか手に入れることができなくなっても、彼らは統計上、所得を向上したことになる。一日一ドルという「貧困」のラインから「救い上げられた」人口の統計のうちに入るかもしれないのである。^gこのような「貧困」の定義は、まちがっているはずである。

(出典…見田宗介『現代社会の理論』岩波書店、一九九六年)

問一 傍線部 a「カテゴリー」と傍線部 b「コンセプト」の意味として、それぞれ適切なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- | | | | | | | | | | | |
|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| a… | ア | 種類 | イ | 雇用 | ウ | 範疇 | エ | 構造 | オ | 周囲 |
| b… | ア | 概念 | イ | 企画 | ウ | 視点 | エ | 場面 | オ | 思惑 |

はんちゆう

問二 傍線部 c「長寿が幸福とは限らない」とあるが、どのようなことが幸福だと本文では言っているのか。このことを示す言葉が空欄 A に入るが、その言葉を本文中から探し、これを解答欄に書きなさい。

問三 傍線部 d「貨幣からの疎外」と、傍線部 e「貨幣への疎外」の意味内容として、当てはまる最も適切なものをそれぞれ次のア～カから選び、記号で答えなさい。

- ア 豊かな自然に根ざした文化と社会から引き離れ、都会に住み、一生懸命に働き、自由を奪われた状況に身を投じること。
- イ 豊かな自然に根ざした文化と社会から引き離れ、貨幣経済によって支配されたシステムの生活に投げ込まれること。
- ウ 貨幣経済によって支配されたシステムの中で、貨幣に価値をおもねらない生活を送ろうとすること。
- エ 一日に一ドル以下の所得がない時にでも、静かで美しく、豊かな日々を送ろうとすること。
- オ 貨幣経済によって支配されたシステムの中で、何とか幸せを見つけ、都会と田舎の価値を比較せず、瞑想しながら生きること。
- カ 貨幣経済によって支配されたシステムの中で、貨幣を少ししか持つことができない生活を送ること。

問四 傍線部 f とあるが、その政策の立場として当てはまる最も適切なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 貨幣経済のシステムの中で生み出された貨幣を用いる方法や所得を尺度とすることを問題視せずに、発展途上国の経済発展を促進しようとする立場。
- イ 発展途上国の経済発展を目指すするには、貨幣を用いた経済システムをひとまず控えるようにする立場。
- ウ 歴史上、先進国から植民地的な扱いを受けてきた発展途上国の立場を見据えずに、貧困からの脱却を試みる開発を目指そうとする立場。
- エ 発展途上国と先進諸国とは違うのであるから、違う観点から物事を考えていこうとする立場。
- オ 発展途上国の生活基盤が貨幣経済のシステムでは成り立っていないことを肯定的に捉えて、発展途上国の発展プランを立てようとする立場。

問五 傍線部 g「このような「貧困」の定義」とはどのような定義か。それを示す一文を本文中から抜き出さない（句読点を含む）。

問六 本文を読んだ上で、筆者の主張と当てはまる最も適切なものを次のア～オから選び、記号で答えなさい。

- ア 人は貨幣経済のシステムの中で生きるべきではなく、今こそ発展途上国の自然とともに生きる伝統的な生活を目指すことが望ましい。
- イ 人は長寿を目指すべきであり、そのためには積極的に発展途上国の自然とともに生きる伝統的な生活を取り込まなければならないだろう。
- ウ 貨幣経済のシステムはもはや変えることはできない、強固なシステムである。そうであるならば、発展途上国の人々は積極的に先進国になるために、自然とともに生きる伝統的な生活から脱却しなければならない。
- エ 発展途上国の人々を積極的に救っていくために、世界中全ての人々が一日一ドル以上稼げるような政策を先進国は進めていかなければならない。
- オ 貧困の定義とは、金銭を持たないことにあるのではない。したがって、世界銀行が制定する貧困の定義は基本的には間違っていると言える。

三 次の文章を読み、問一～問六に答えなさい。

^a日本人にとって、水や湯や氷がそれぞれ独立した、いわば別個のものであるのは、「水」「湯」「氷」のような、互いに区分が明確で、それぞれが独立した存在であることばの持つ構造を、現象の世界に私たちが投影しているからなのである。

水と湯の区別とは、ちよつとした温度の差に依存するわずかなものであり、相対的な対立ではないということは誰の目にも明らかである。しかしこれに比べて、水と氷（および湯）の間には、究極的には温度の差に帰することができにせよ、一応液体と固体の差という比較的明瞭な区別が存在する。だから両者の区別は、単なることばの問題というよりも、ものの側に、それを裏付けるだけの要因があるのだと言う人がいるかも知れない。

しかしそれならば、氷とつららの区別はどうであろうか。或る限られた条件（生じる場所と形状）の下で、日本語ではあたりまえの氷が、「つらら」と呼ばれるにすぎない。氷とつららの区別を支えているのは、ここでも矢張り、「氷」と「つらら」という、同一の対象を違った角度から見方につけられたことばなのである。だから、ものとしてのつららが立派に存在するトルコで、「氷」^{bon}と区別された「つらら」ということばがなくても不思議ではない。

このように考えてみると、^b氷と雹、^{ひょう}霰、^{あられ}雪、^{みぞれ}霰、などとの区別もあやしくなる。気温が上がればこれらはすべて雨になってしまう。そして雨と霞、^{かすみ}霧、^{もや}霧の相違も水滴の粒子の大きさの問題にすぎず、しかも地面との相対的な距離のちがいで、どれも雲になり得る。

素材の点では同一であるこれらの諸現象が、なぜそれぞれ違った名称を与えられているかといえ
ば、。その方が人が生活していく時に、便利だからである。都合がいいのである。

ものにことばを与えるということは、人間が自分を取りまく世界の一側面を、他の側面や断片から切り離して扱う価値があると認めたということにすぎない。

化学式で H_2O と一括することのできる同一のものが、日本語で「氷」「水」「湯」「ゆげ」に始まり、「露」「霜」から「春雨」や「夕立」に到る、何十という別々のことばで呼ばれていることは、しかし、確実なものとしての存在は、 H_2O だけであって、それ以外の名称は、名前だけの実体のない存在、つまり対象の側に必然的な裏付けのない虚構であるということにはならないのである。

何故かといえば、この H_2O ですら、人間が世界をある特定の角度から整理した結果、把握されたものであつて、決して最終的な、確実なものではないからだ。 H_2O が水素原子と酸素原子の、ある情況下での結合物であることは明らかで、その水素や酸素の原子にしても、再び更に細かい構成要素の組合せとして捉えられていくというプロセスの繰返しを含んでいる。

^a「 H_2O 」という記号、つまり科学的なことばで把握される対象も、虚構という点では、「つらら」や「五月雨」と何等変わらない。人間の精神が、人間をとりまく森羅万象の世界に働きかけて作り出すことばは、すべてこの虚構性に支えられているのである。

人間は生のあるがままの素材の世界と、直接ふれることはできない。素材の世界とは、渾沌^{こんとん}とも、カオスともいうべき、それ自体は無意味の世界であつて、これに秩序を与え、人間の手におえるような、物体、性質、運動などに仕立てる役目を、ことばがはたしていると考えざるを得ない。

(出典…鈴木孝夫『ことばと文化』岩波書店、一九七三年)

問一 傍線部 a 「日本人にとって、水や湯や氷がそれぞれ独立した、いわば別個のものである」と述べているのはなぜか。文章中の表現を使って、その理由を記述しなさい。

問二 傍線部 b 「氷と雹^{ひょう}、霰^{あられ}、雪、霰^{みぞれ}、などとの区別もあやしくなる」とあるが、筆者はなぜ「区別もあやしくなる」と述べているのか、文章中の表現を使って、二十字以内で記述しなさい。

問三 傍線部 c 「その方が人が生活していく時に、便利だからである」とあるが、ここでいう「便利」とは具体的にどういうことを指しているか。最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 自然現象を正確に科学的に分類できること。
- イ 言葉によって、日常生活の中で現象を使い分けて区別できること。
- ウ 他国と文化的な違いを表現する手段になること。
- エ 同じ現象をできるだけ多くの言葉で言い換えられるようにすること。

問四 傍線部 d 「 H_2O 」という記号、つまり科学的なことばで把握される対象も、虚構という点では、「つらら」や「五月雨」と何等変わらない」とあるが、これが意味することとして最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 科学用語で表される対象は、自然現象の本質を正確に伝えている。
- イ 「 H_2O 」は普遍的な真理であり、「つらら」などとは本質的に異なる。
- ウ 「 H_2O 」という概念も、ある見方から切り取った人間の創作に過ぎない。
- エ 科学的な表現は文化的表現よりも客観的である。

問五 本文の全容から「氷とつららの違いはどのような点にあるのか」を考え、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 物質として全く異なる点
- イ 温度の違いによる点
- ウ 言葉の違いによる認識の差
- エ 形の違いによる分類の差

問六 本文全体の主旨として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。

- ア H_2O のような科学的表現は真理に近く、言語による区別は曖昧である。
- イ ことばとは、現象を明確に切り分け、実体を確実に把握する手段である。
- ウ 自然現象の呼び方は文化ごとに異なるため、正確に翻訳できない。
- エ 人間はことばという虚構を通じて世界を認識しており、ことばには本質的な意味づけをする役目がある。

一

①

「

」

②

「

」

③

「

」

④

「

」

⑤

「

」

⑥

「

」

⑦

「

」

⑧

「

」

二

問一

a

「

」

b

「

」

問二

「

」

問三

d

「

」

e

「

」

問四

「

」

問五

問六

「

」

受験番号
氏 名
*

三

問一

問二



20 字

問三

問四

問五

問六

受験番号
氏 名
*
*

二〇二六年度 一般選拔型選抜 前期国語 解答例・出題意図

一 (計16点)

- | | | | |
|--------|---------|--------|---------|
| ①「あなど」 | ②「ねんぼう」 | ③「そち」 | ④「へんせん」 |
| ⑤「兆し」 | ⑥「長蛇」 | ⑦「汎用性」 | ⑧「病棟」 |
- (2×8＝16点)

二 (計46点)

問一 a「ウ」 b「ア」

【出題意図】

文脈を読み取る力と、語彙力を問う。

(5×2＝10点)

問二 「悩みがない」

【出題意図】

語彙力と、文章の論理構造を読み取る力を問う。

(6点)

問三 d「カ」 e「イ」

【出題意図】

文脈を読み取る力と、語彙力を問う。

(5×2＝10点)

問四 「ア」

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問う。

(6点)

問五

【解答例】

貧困な層の定義として世界銀行等でふつうに使われるのは、一日あたりの生活費が1ドルという水準である。

【出題意図】

文章の論理構造を読み取る力を問う。

(8点)

問六 「オ」

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問う。
(6点)

三
(計 38 点)

問一

【解答例】

それぞれを区別する「水」「湯」「氷」ということばの構造を、私たちが現実の世界に投影しているから。

【出題意図】

文章の論理構造を読み取る力を問う。

(7点)

問二 素材の点では同一である現象だから。

【出題意図】

文章の論理構造を読み取る力を問う。

(7点)

問三 「イ」

【出題意図】

文章読解力と、論理構造を読み取る力を問う。

(6点)

問四 「ウ」

【出題意図】

文章全容の読解力と、論理構造を読み取る力を問う。

(6点)

問五 「ウ」

【出題意図】

(6点)

文章全容の読解力と、論理構造を読み取る力を問う。

問六 「エ」

【出題意図】

文章全容の把握力や、要旨としてまとめる力を問う。

(6点)